第２章　各種まちづくりの基本理念

「第２期中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」では、盛岡市総合計画、盛岡市都市計画マスタープランのほか、既存の計画と整合性を図り、中心市街地の活性化を推進していきます。

2-1　盛岡市総合計画のまちづくりの考え方

■盛岡市総合計画（2015-2025）

人口減少や少子高齢社会の進行、東日本大震災を契機とした安全・安心に対する意識の高まりなど、社会情勢の変化などを見据え、長期的な観点に立った、市のまちづくりの指針となる盛岡市総合計画を、平成 26 年度に策定しました。

総合計画は、福祉・教育・産業・環境・文化・スポーツ・都市基盤など、まちづくりの各分野にまたがる計画で、市が実施する取組の指針となるものです。市の目指す将来像や４つの基本目標、市政の各分野における施策などを体系的に示しています。

■目指す将来像は「ひと・まち・未来が輝き　世界につながるまち盛岡」

市民の誰もがいきいきと暮らし、人の営みを支える産業やにぎわいがまちに活力を生み、盛岡らしさをいかしながら新しい魅力を生み出し、未来に引き継いでいくとともに、市民が盛岡のまちに誇りを持ち、世界の中で盛岡らしさを発揮できる世界につながるまちを目指すものです。

■盛岡市の主要な将来見通し

人口減少・少子高齢社会が進行し、財政面でも厳しさが増す中、市民生活や生産活動を行うための共通の基盤である土地については、総合的で計画的な利用を推進していく必要があります。

中心市街地や既成市街地など、宅地や業務用地の提供を図ってきた地域では、人口減少などの社会情勢の変化を捉えた適正で計画的な土地利用を図り、コンパクトで効率的な市街地を形成する必要があります。

■４つの基本目標

①「人がいきいきと暮らすまちづくり」

盛岡に定住する人口を保ち、活力ある社会を築いていくため、若い世代や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思うとともに、豊富な経験を持つ高齢者が社会のさまざまな分野で活躍できるまちをつくります。また、誰もが、心身ともに健やかで自分らしさを発揮しながら、人がつながり、互いに支え合う共生社会の中で、充実感を持っていきいきと安全に暮らすことのできるまちをつくります。

目標を達成するため、子ども・子育て、若者への支援、安全・安心なくらしの確保などに取り組みます。

②「盛岡の魅力があふれるまちづくり」

盛岡を行き交う交流人口を増やし、にぎわいを創出していくため、雄大な自然や美しい景観、城下町の歴史、芸術文化、スポーツ、温かい人情など、盛岡の魅力を守り育てるとともに、まちづくりにいかし、盛岡らしさが光る、魅力あふれるまちをつくります。

目標を達成するため、歴史・文化の継承、芸術文化の振興などに取り組みます。

③「人を育み未来につなぐまちづくり」

長い歴史とともに築いてきた文化や環境などを次世代に引き継ぐため、未来の盛岡を支え、創り、つなぐことのできる人を育むまちをつくります。また、環境への意識が高まる中、豊かな自然環境と快適な都市機能との調和が続く、持続可能なまちをつくります。

目標を達成するため、社会を担う人材の育成・支援などに取り組みます。

④「人が集い活力を生むまちづくり」

人口減少、少子高齢社会の進行とともに、地方の衰退が懸念されている中にあっても、活力を生み出し、拠点都市としての役割を十分に果たしていくため、産業の振興や中心市街地の活性化を図るとともに、高次の都市機能の集積を推進し、求心力のあるまちをつくります。また、国際化が進展する中で、世界に通用する優れた人材を育むとともに、多文化共生のまちづくりを進め、世界に開かれた、活力を生むまちをつくります。

目標を達成するため、産業の振興、雇用の創出、都市基盤施設の維持・強化などに取り組みます。

■中心市街地活性化に関連する、まちづくりを考える上で重視する視点

「都市の魅力を磨き選ばれるまち」

定住人口の保持や交流人口の増加などにより、まちの活力を維持していくためには、本市の持つ美しいまち並みや文化、人材など、地域資源を活用し、都市の魅力を磨くとともに、その魅力を効果的に市内外に発信するなど、選ばれるまちをつくる視点が重要です。

「東北の拠点となるまち」

本市が有する交通の結節点という優位性を活かし、産業・経済面をはじめ、教育や医療の分野などにおいて、中枢機能を持ち、広域圏のみならず、県都としての役割を担うとともに、東北における重要な拠点の一つとなっています。また、新たな広域連携の仕組みが制度化されるなど、広域的な取組が重視されているほか、東北においては、産業の振興とともに、東日本大震災からの復興が課題となっています。

このような中、農林業、商工業、観光の振興や中心市街地の活性化を図ることにより、さらに産業・経済面での拠点性を高めるとともに、周辺自治体と連携しながら広域圏、岩手県全体の発展を見据えたまちをつくる視点が重要です。

2-2　盛岡市商業振興ビジョン等における中心市街地の役割

■盛岡市商業振興ビジョンにおける中心市街地の役割

「売り手よし、買い手よし、世間よし」で生み出す賑わいと活力あふれるまち盛岡
～企業（起業）が育つ環境づくり～

盛岡の商業・サービス業は近江商人の伝統を受け継いで発展してきたことから、近江商人の商売の基本原則である三方よしの精神を事業者が実践することができるよう、成長していける環境づくりを進め、賑わいと活力あふれるまちを目指しています。

本市の商業・サービス業は、中心市街地から発展してきたものであり、今後も、本市の商業・サービス業を牽引することが期待されています。

■盛岡市工業振興ビジョンにおける中心市街地の役割

「若者が躍動し、新たな価値が創出される、世界に通じる魅力ある産業が集積する盛岡」

このビジョンでは、企業誘致の強化、地場企業の経営力の強化、理工系人材の地元定着の強化に

より、振興戦略を策定したヘルステック産業及び IT 産業のほか、本市のリーディング産業として位置付けた食料品製造業、金属製品製造業、情報サービス業を始めとする工業に関連する各産業の高付加価値化を達成する好循環を生み出すことを基本方針に掲げています。

特に情報サービス業の企業誘致においては、盛岡駅周辺エリアに対する需要があることから、理工系人材の地元定着を促進する観点も含めて、IT 産業などの集積地区として期待されています。

■もりおか農業・農村振興ビジョン 2030 における中心市街地の役割

「農業・農村が輝き 世界とつながる 「もりおかの食と農」 」

基本方針の１つである「食と農がつなぐ笑顔あふれる地域の創造」の施策プランの「美食王国もりおか」の確立に向けた事業展開、食関連事業者による盛岡産農畜産物の利用促進などにおいては、中心市街地に集積する飲食サービス業との連携が期待されています。

2-3　盛岡市観光推進計画等における中心市街地の位置づけ等

■盛岡市観光推進計画の基本方針等

基本方針の１つである「選ばれる観光地域づくり」の重点施策として、「まちなか観光の推進」が位置付けられており、自然、食文化、伝統工芸など、中心市街地にある暮らしの中にあるコンテンツ自体が観光資源となっていることが多いほか、 観光産業の「稼ぐ力」向上の重点施策として、「ＭＩＣＥ誘致の推進」が位置付けられており、コンベンション施設や宿泊施設が集積している中心市街地は重要な役割を期待されています。

■盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画における中心市街地の位置付け

この計画の土台となる「盛岡ブランド」とは、盛岡らしい有形・無形の価値や魅力であり、長い歴史を持つ盛岡の、脈々と続いている「暮らし」の中から生まれ、今を生きる私たちも誇りや愛着を感じる価値や魅力、そこから生まれる安心や信頼といったイメージをも含むものとされており、「自然と暮らしの物語」、「暮らしと伝統の物語」、「先人と文化の物語」、「人と人を紡ぐ物語」の４つの物語は、中津川、盛岡三大麺、盛岡さんさ踊り、材木町よ市など、多くのコンテンツが中心市街地に関連性の強いものとなっています。

2-4　盛岡市都市計画マスタープラン等における中心市街地の位置づけ等

■盛岡市都市計画マスタープランにおける中心地域のまちづくりの基本方針

「人にやさしく元気なまちづくり」

都市交通の円滑化を推進するため、将来道路網計画に基づく幹線道路の整備促進とともに、公共交通や自転車の利便性の向上と利用促進によって自動車流入量の低減を図り、交通渋滞の緩和を図ります。

また、街路の歩行空間の確保やユニバーサルデザイン化の推進など、歩行者が安心して快適に通行できる環境づくりを進め、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりに取り組みます。あわせて、観光資源を活かした道路整備などによって、商店街を活性化し、歩いて楽しめる元気な中心市街地の形成を目指して、地域と一体となったまちづくりを推進します。

さらには、多くの都市機能が集積する内丸地区の再整備や地域の魅力を繋ぐローカルハブとして盛岡バスセンターの拠点性の発信、土地の高度利用とともに商業・業務施設などの整備を行う中ノ橋通一丁目地区の再開発のほか、低未利用土地の解消対策など、官民が一体となった取組を推進し、

市の中心拠点としてより一層の都市機能の集積と賑わいの創出を図り、お城を中心とした風格ある城下町盛岡のまちづくりにより都心の再生を目指します。

「みんなで気づき、守り育てる盛岡の景観」

大切な都市景観を守り育て、後世に盛岡らしい景観を引き継ぐために、景観形成に関する地域意識のさらなる醸成に努めるとともに、岩手山眺望の確保や建築形態の規制など、まちの記憶を大切にした良好な都市景観の形成に向けて、市民協働の景観づくりを行い、中心市街地の活性化につながる積極的な景観の活用を図ります。

また、これらの取組により、お城を中心とした城下町盛岡らしい風格ある景観づくりを推進します。

「さあ始めよう！　身近なところのまちづくり」

まちなか居住を推進するとともに、地域の安心安全を支えるコミュニティを守り育てるために、身近な自然環境や公共施設、商店街を交流の場として充実させるなど、誰もが集える環境づくりを進めます。また、来訪者にもやさしいまちづくりを進めることにより、様々な交流を図りながら、この地に住まい、この地を愛する心を育む、より良いまちづくりを推進します。

中心地域には、雫石川、北上川及び中津川が流れ、豊かな自然に恵まれた盛岡のまちのイメージを構成しています。また、まちなかの貴重な自然空間であり、河川管理者や市民団体等と連携した盛岡地区かわまちづくり事業などにより、沿川の市街地と一体となった地域の賑わい創出の場や憩いの場、観光振興の場としての利活用を図ります。

一方では、洪水浸水想定区域内にあり、河川沿いの一部が河岸侵食や氾濫流による家屋倒壊などのリスクがあるエリアに含まれています。この災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

■盛岡市立地適正化計画における中心市街地の位置付け

盛岡市立地適正化計画においては、本プランにおける中心市街地区域を都市機能誘導区域の中心拠点とし、また、盛岡駅や盛岡バスセンターから半径 800m以内、盛岡都心循環バス「でんでんむし」のルートとなっている道路の道路端から 300mの範囲を都心居住区域に位置付けています。

また、中心拠点の誘導施設として、行政、教育、医療機能など主要な都市機能を位置付けています。

■内丸地区将来ビジョンの将来像

令和４年３月に策定した内丸地区将来ビジョンでは、概ね 20 年後を見据えた内丸地区のあるべき姿として、①県都の核として社会経済を牽引するまち内丸、②城下の風格と都心空間が調和するまち内丸、③英知が集い未来を創造するまち内丸、が示されており、ビジョンの具体化に向けて、歩行環境の充実等による人中心の空間、歴史資源や自然資源を手掛かりとした「盛岡らしさ」を活かした都市空間デザイン、回遊性の高い土地利用、アクセス性の高い公共交通ネットワークの構築などの方針のもと、（仮称）内丸プランの策定が進められています。

■コンパクトシティに向けて

市全域のまちづくりの基本方針のひとつとして、「賑わいと活力がある市街地づくり」を掲げており、県都そしてみちのく盛岡広域連携中枢都市圏の中心としての機能集積をさらに高め、コンパクトで健全な市街地の形成を目指しています。

また、国が募集する「ウォーカブル推進都市」に令和元年８月に応募し、「まちなかウォーカブル

区域」の指定を目指すことにしており、今後の人口減少・少子化・高齢化の中でも持続可能な「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造への誘導など、機能的な都市構造を確保するためのまちづくりを推進していきます。

2-5　もりおか交通戦略等における中心市街地活性化の位置づけ等

■もりおか交通戦略（第二期）における戦略基本方針

戦略基本方針の１つである「中心市街地回遊性向上・公共交通利用促進策」において、快適で安全に歩いて楽しむ中心市街地形成のための戦略構築が位置付けられており、中心市街地区域内の４つのエリア内の回遊性・滞留性の向上につながる取組が実施・検討されています。また、同戦略基本方針では、公共交通軸の充実・強化を図るための戦略構築が位置付けられており、中心市街地区域外からの公共交通の利便性の向上が図られる取組が実施・検討されています。

■盛岡市地域公共交通網計画における中心部の位置づけ

中心市街地が含まれる中心部は、主に起終点として、広域的交通、周辺市町との交通、市内交通を結び、大規模な交通需要に対応することや、鉄道、高速、都市間バス、一般路線バス、タクシー、自転車、徒歩、自動車の乗り継ぎ、乗り換えが可能であること、商業施設などの複合的な機能を有する中心結節点として位置づけられ、具体的な想定施設として、バスターミナルを含む盛岡駅や、盛岡バスセンターが挙げられています。

また、市内の各地域を結ぶ、鉄道軸、都心中心線、地区連絡線、地域拠点連絡線などの地域公共交通網が整備されることで、中心市街地区域外からの公共交通の利便性の向上が図られることが期待されます。

2-6　まちづくりにおける中心市街地活性化の意義

■人口減少・少子高齢社会に対応したまちづくりの要請

人口減少、少子高齢化の進行により、国や地方公共団体の税収が減少するとともに、財政規模の縮小が見込まれます。その中において、中心市街地は、商業・都市機能が既に集積しており、既存ストック[注1]が豊富であることから、盛岡市総合計画が目指す将来像の実現や、基本目標の達成に向けて、これらを積極的に有効利用していく必要があります。

また、多くの人々が気軽に集い、暮らしやすさや便利さを実感できる賑わいと魅力に溢れた地域を目指すことで、将来的には少子高齢社会にも対応したコンパクトで持続可能なまちづくりにつながります。

注１　これまでに整備された、道路などの都市基盤施設や、公共施設・商業施設などの建築物等のこと。

■ポストコロナにおける地域経済のＶ字回復に向けて

近年、本市の中心市街地では、商店数や小売年間販売額の減少のほか、郊外型大規模小売店舗やインターネット販売の影響、統廃合等による各種事業所の減少、空き店舗の増加などによる吸引力の低下が見られ、中心市街地の活力が徐々に失われている傾向にあります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市民生活や事業活動が制限され、これまでの生活様式の転換が求められることになりました。また、感染症拡大の長期化に加えて、ロシアのウクライナ侵攻を背景としたエネルギー価格をはじめとする物価高騰は、市民生活や事業活動に大

きな影響を与えています。

こうした中で、令和５年１月にアメリカのニューヨークタイムズ紙が発表した「2023 年に行くべき 52 カ所」に、ロンドンに次ぐ２番目に本市が選ばれたことや、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが令和５年５月に５類に移行されたことで、市内のみならず、国内外からの来訪者の増加が期待されています。

ポストコロナにおける地域経済のＶ字回復に向けて、中心市街地は、本市の持続的な発展の牽引役として強く期待されている地区であり、商業活性化や観光・歴史・文化の振興策、コンパクトで利便性が高い都市機能整備の実施に加えて、みちのく盛岡広域連携都市圏の中心部としての役割や、県都としての役割、さらには北東北の交流拠点都市としての役割を果たすためにも、本市の中心市街地を活性化することが求められています。

■自然・文化の継承、都市機能の増進、社会経済活力の向上の総合的な推進

中心市街地には、中津川などの豊かな自然や盛岡城跡公園などの歴史、南部鉄器、盛岡三大麺、市（いち）など、暮らしの中に根付いた文化が多数残されています。また、都市機能が集約され、盛岡市都市計画マスタープラン、盛岡市立地適正化計画、盛岡市総合交通戦略、もりおか交通戦略（第二期）、盛岡市地域公共交通網形成計画などにおいても、重要な位置付けとなっています。

特に、国土交通省が提唱する、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を目指して推進する「ウォーカブルシティ」は、街なかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場にしていく取組で、ひと中心の豊かな生活空間を実現させるだけでなく、地域消費や投資の拡大、観光客の増加や健康寿命の延伸、孤独・孤立の防止のほか、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造につながることが期待されています。

そのため、盛岡らしい自然・歴史・文化の継承や発展、都市計画などの基本方針や取組と整合性を図りながら、商業・サービス業・金融業のほか、IT 産業や高度な研究機関の集積によるイノベーションの創出が図られる経済機能や、本市の魅力を生かした観光機能を効果的に連携させながら、社会経済活力の向上を図る必要があります。